

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500767
法人名	有限会社 オアシス
事業所名	グループホーム ぽかぽか
所在地	伊予郡砥部町高市1318番地
自己評価作成日	平成24年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 11月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かなホームの環境を活かして、四季の移り変わりを全身で感じながら穏やかに過ごしていただいています。何気ない日々の生活の中で楽しみや役割を見つけていただいて、残された力の維持を目標としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にある1ユニットの事業所である。事業所の畑で利用者と一緒に野菜を育てたり、地域住民から野菜を購入するなど、地産地消を心がけている。利用者は畑の世話や、地域住民との日常的なふれあいを楽しみながら、生き活きと和やかに毎日を過ごしている。職員は事業所を第二の我が家のように感じながら、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの残存機能を尊重したケアを行っている。開設から8年目を迎え、利用者や家族が事業所での看取りを希望した場合に対応できるよう、全職員で力を合わせて体制整備に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホームぽかぽか

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

大平 真里子

評価完了日

平成 24年 10月 18日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所独自の運営理念を作り、リビングに掲示している。日頃から意識して支援に取り組んでいるが、職員の入れ替わり時や、ミーティング等の機会を利用して話し合い、意識づけするようにしている。</p> <p>(外部評価) 家庭的な雰囲気の中で心和む毎日をご提供してもらいたいとの思いを込めた理念と職員の心得を作成し、日頃から話し合いを重ね、実践につなげるよう取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日頃の散歩や地域の行事などへ積極的に参加し、こちらから声をかけ交流を持つようにしている。町内の道の駅や地域の農家の方から野菜を購入し、地産地消を目指している。</p> <p>(外部評価) 事業所の周辺には民家や小学校があり、散歩時や畑の世話をしているときなど気軽に地域住民と話をしたり、普段からふれあう機会が多い。子供たちの事業所訪問は利用者の楽しみのひとつとなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を利用して、地域の方と認知症について考える機会を作っている。自宅で介護されている近所の方の話を聞いたり、支援の方法について助言をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の取組みについての報告だけではなく、出席 者からの意見、要望を聞くようにしている。毎回議事 録を職員に回覧し、共有するようにしている。	
			(外部評価) 民生委員や介護相談員、地域住民など参加者それぞ れの立場から事業所の取組みや状況について意見交換 を行っている。事業所の行事を兼ねた運営推進会議で は参加者も多く、地域住民に事業所のことを知って もらう良い機会となっており、地域とのつながりに役立 っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や介護相談員の訪問、介護保険更新時 の訪問調査等を利用して、ホームの様子を見て頂 いたり、相談したりすることで、関係づくりに努め ている。	
			(外部評価) 町の担当者とは、運営推進会議への出席以外にも日 常的に連絡を取り、事業所の取組みや状況を伝える などして連携を深めている。相談もしやすく良好な 関係が構築できている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしない方針で取り組んでいる。玄関の施 錠は防犯の為、夜間のみとしている。利用者の外 出傾向の特徴を把握し、声掛けや誘導で対応して いる。	
			(外部評価) 全職員が身体拘束をしないケアを実践できるように、 日頃から話し合い理解を深めている。言葉でも行 動を抑制していないか常に意識して細やかに配慮 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉づかいなどは職員同士で注意し合うようにしている。何が虐待になるのかを話し合い、事業所内での問題が起こらないようにしている。利用者と家族との関係については、面会の際などに様子を確認するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修の機会を利用して知識の向上を図るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 可能ならば契約の前に、見学していただいて説明をさせていただいている。疑問点があればその都度説明し、ご理解いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を利用して家族と外部の方が意見交換をしている。面会に来られた時に日常会話をしながら、家族の思いを聞くようにしている。	
			(外部評価) 電話連絡や面会時、事業所の行事の時などに、家族と日常の会話を重ねて、意向や要望を汲み取ったり意見を言いやすい環境づくりに努めている。毎月、事業所での様子や健康状態などを細かく記載し、写真を添えて送付している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング等で職員から意見や要望、提案等を聞く機会があり、積極的に意見交換が出来ている。職員の提案から支援へ反映することもある。また、代表者が積極的に職員に声掛けし会話も多い。  (外部評価) ミーティングなど職員が意見を出せる機会を作っている。管理者は現場にすることが多く、普段から職員とのコミュニケーションも取れており、意見や要望を伝えやすい環境にある。職員の声を活かした運営になるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 休日の希望については、事前に把握するようにし、可能な限り要望を取り入れるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の立場や経験などを考慮し、それぞれに合った研修を提案している。研修を優先してシフトの作成により、無理なく参加できる環境づくりをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同一法人の事業所と定期的に交流し、情報交換を行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 安心して生活できるように、本人の思いを感じ取るよう接している。また、話やすい雰囲気づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の立場での思いや要望等をしっかりと聞くようにしている。安心して利用していただけるように関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の気持ちを大切に、優先すべき支援について見極めるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に時間を過ごし、生活の中で感じることを共有することで、お互いの信頼関係を築くようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームでの生活や受診については、毎月のお知らせで個々に報告している。利用者の状況によっては、家族に相談し解決することもある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族から希望があれば、外出している。また、利用者から要望があれば家族に相談し、家族に協力していただいている。受診の際に、懐かしい場所を通り、昔話を聞かせていただいている。	
			(外部評価) これまで暮らしていた地域での馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、生家を訪れたり、墓参りなど利用者の希望にあわせて関係継続に努めている。	職員間で利用者の情報量について差があるため、それぞれに知っている情報を書きだして整理し、全職員が統一された利用者情報を共有することで、馴染みの関係継続の支援につながることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の会話はそっと見守る。リビングで利用者が一緒に過ごしている時などは、職員も中に入り、全員で会話を共有できるように心配りをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 事情により、他のサービス等を利用する場合などは、これまでの支援や経過などの情報を提供し、利用者が不安なく生活できるように支援している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一緒に外出したり、ゴミ出し、散歩など、出来る限り同行して、ホーム内では分からない本人の思いなどの把握に努めている。また、夜勤の担当者との連携を図り情報の交換に努めている。	
			(外部評価) 思いや意向を伝えにくい利用者は表情や行動から汲み取ったり、家族や知人に確認するなどして把握に努めている。利用者の立場に立って気持ちに寄り添い、利用者が思いや希望を伝えやすいように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日光浴や外出時など、気持ちがゆったりしている時などに、それまでの生活、仕事、家族の話を問いかけるようにしている。本人から話をされる時は傾聴に努めている。面会の時を利用して家族に話を聞くようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 自由に過ごせる時間、一人になれる場所の提供に気を配っている。生活の中で、本人の出来ること出来ないことことを発見するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員全員揃っての担当者会議は困難だが、職員それぞれ気づいたことがあれば、個別に報告している。ケアマネがまとめ、他の職員と相談し合うようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を確認し、職員の意見を反映した介護計画をケアマネジャーが作成している。モニタリングを行い、現状に即した計画になるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の出来事を個別に記録し、それを基に支援経過と毎月の評価をすることで職員間の情報を共有して、介護計画の見直しをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の言動や行動から見えてくる思いや要望があれば、その都度個別に対応する。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のお店で買い物し、つながりを大切にしている。近くの小学校やお宮への散歩、クローカー場での交流など、地域での楽しみを見つけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を優先して、定期的にそれぞれのか かりつけ医に受診している。急変があれば、看護師か らかかりつけ医に連絡し対応している。	
			(外部評価) 利用者と家族の希望に合わせて、かかりつけ医に受診 できるよう支援している。近くのクリニックからも往 診に来てもらえるよう体制を整えている。利用者と家 族の希望に応じて納得できる適切な医療を受けられる ように取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の様子に変化、気づきがあった場合には看護師 に連絡し対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が適切な治療を受けられるよう病院との情報交 換や相談に努めている。退院が決まれば退院後のリハ ビリなどについて相談するようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所ですることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の重度化によりその都度、家族と相談し対応し ている。現在、看取り対応に向けて体制づくりを整え ている。	事業所での看取りは家族や医師、全職員の協力が必要 である。職員の勉強会を行ったり、看取りについて全 職員で話し合うなどして方針を統一し、利用者と家族 が安心して納得できる終末期を迎えられるよう支援体 制の整備に期待したい。
			(外部評価) これまで看取りの経験はないが、今後、利用者と家族 の希望があれば対応できるよう、看取りの指針を作成 し往診できる医師との協力体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時は、看護師と連携を図り対応している。応急処置については、消防署に協力していただいて研修している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の消防訓練に参加したり、消防署に協力していただいて防災訓練を行っている。気付いたことを話し合い安全な避難方法を考えるようにしている。	
			(外部評価) 高齢者が多い地域であり、災害時はお互いに協力し合う必要がある。国と県、町が主催した土砂災害の訓練に地域住民と参加したり、日頃から消防訓練を一緒に行うなど災害時に確実に安全に避難できるように地域住民と一緒に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声の大きさ、言葉づかい、声掛けのタイミング等、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮して対応するようにしている。	
			(外部評価) 利用者の誇りやプライバシーを損ねる声かけや対応をしていないか、常に職員全員が注意している。慣れ合いにならないように、一人ひとりの人格を尊重しその人らしさを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の会話の中から食べたい物、出かけた場所、好きな歌等利用者の好みや要望を聞き、サービスに取り入れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ある程度の一日の流れは決まっているが、利用者のその日の気分や状態で過ごし方も対応するようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節ごとに利用者と一緒に衣替えをし、衣類等の管理を兼ねて好みも把握する。必要があれば家族に協力していただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑での野菜作りから収穫、調理、片付けまで利用者が一緒に関わることで、食への楽しみを持ってもらうようにしている。	
			(外部評価) 事業所の畑で利用者と育てた旬の野菜を使った手作りの食事にしている。栄養バランスを考慮しながら利用者の希望するメニューを取り入れたり、誕生会など行事食を工夫するなど、食に対する意欲が沸き、食ることが楽しみになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養のバランスが偏らないようにしている。水分は記録に残して状態を把握している。食べる量や様子を観察し体調の把握に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、利用者自身で歯磨きしている。習慣のない利用者には声かけしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に記録し、個々の排泄パターンを把握している。出来る限りトイレでの排泄を心がけ誘導や介助にて対応している。	
			(外部評価) できる限りおむつや紙パンツに頼らず布パンツを使用し、気持ち良くトイレで排泄できるよう支援している。利用者の残存機能を活かしながら、排泄の自立に向けて職員全員で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事に食物繊維を取り入れたり、毎朝の牛乳、アロエジュース、適度な運動をすることで自然な排泄を目指している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日は決まっているが、体調や気分等に考慮している。入浴拒否の利用者もいるが、声掛けやタイミングを見計って誘導している。	
			(外部評価) 身体状況に応じた安全な入浴ができるように支援している。入浴の苦手な利用者には声かけや対応を工夫したり、一人ひとりが気持ち良く安心して入浴ができるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 快適に眠る為に寝具の洗濯、布団干し等を日常的に行っている。夜眠りにくい利用者には昼間に外気浴を行う等個別に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を確認し、正確な服薬が出来るように確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中での個々の役割や楽しみを見つけられるように利用者の様子を見守りながら、興味を探るように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 食材の買い物兼ねてドライブに出かけたり、家族に協力していただいて実家やお墓参りに出かけたりしている。	
			(外部評価) 事業所は豊かな自然に囲まれており、散歩をしたりきれいな空気を吸って外気浴をしたり、歌を歌って体を動かすだけで気持ち良く、気分転換になっている。日頃から買い物や他事業所の行事など、積極的に外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は預かっていないので、個人的に使うことはしていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話でのやり取りはしていない。手紙については、利用者から要望があれば対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングは季節ごとに壁面制作を飾っている。中央にテーブルを置き、利用者全員で食事や会話を楽しめるように配置している。</p> <p>(外部評価) 共用の空間には利用者全員で囲める大きなテーブルがあり、和やかに談笑している。壁には外出時の写真や行事の写真が飾られており、利用者にも好評である。季節の花を飾ったり金魚を飼育するなど心和む空間づくりに努めて、過ごしやすくしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 独りでゆっくりしたい時は居室で過ごしていただく。気の合う利用者同士は近くの席に座り会話できるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族と相談し、本人の使い慣れた物があれば持って来ていただいている。衣類の片付けや衣替えに来て下さる家族もいる。</p> <p>(外部評価) 居室には大きめのクローゼットとベッドが備え付けられ、使い慣れた家具や愛着のあるものなどが持ち込まれている。日当たりの良い窓辺で観葉植物を育てることができ、利用者が楽しみを持って居心地良く過ごせるように工夫をしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 安心して移動できるように空間を広くとるようにしている。手すりなどは不備がないか確認している。</p>	